

タイ和僑紹介

父への饒に／機内で聞いた「虫の知らせ」  
Wellness Life Project (Thailand) Co., Ltd.  
代表 谷田貝 良成さん

○Wellness Life Project (Thailand) Co., Ltd.  
(ウエルネスライフプロジェクト・タイランド)

高齢者や障害を持つ人々を対象にタイ長期滞在支援プログラムの提案・運営などを行うタイ企業。2000年1月に設立。代表を務める谷田貝良成さんは大学を卒業後、日系の旅行会社に入社。バンコクの営業所に配属されたのがきっかけとなって、タイでの暮らしが始まった。約10年間のサラリーマン生活の後に独立し、現地で会社を設立。現在に至っている。在タイ歴は28年目。2010年にはタイ王国和僑会が正式に発足し、その初代代表幹事も務めた。13年11月にバンコクで開催された「第5回和僑世界大会」では過去最多の来場者を集め、その陣頭指揮も執った。



航空機の中で「虫の知らせ」を聞いたと話す谷田貝良成さん（写真は亡父勉さん）

「ひょっとしたら、病室にいたはずの父が知らせに来たのかもしれない」。そんなふう思った。バンコク発羽田行き全日空の航空機内。2016年3月2日午前2時42分。そのころ、座席の前にある小さなモニター画面では、映画「鉄道員(ぽっぽや)」がエンディングを迎えようとしていた。

北海道のローカル線幌舞駅で駅長を務める佐藤乙松。そこへ見慣れぬ少女が現れる。乙松は初め寺の住職の孫娘かと思っただが、間もなくして少女が幼くして逝った愛娘の雪子だと知る。

と知る。妻静枝もまた雪子を追うように数年前に病が原因で帰らぬ人となっていた。乙松自身もやがて雪の降り積もるホームで息絶える。「やたら人が亡くなる映画だな。観なきゃよかったかな?」。何よりも乙松が、娘と妻のいずれの最後にも立ち会えなかったことが妙に気になった。「虫の知らせ」に胸が高鳴った。

羽田空港に降り立ったのはそれから数時間後。父が入院する千葉県流山市の病院に直行するつもりでいた。だが、電話口に出た母は「お疲れさま。うちに戻っておいで」と静かに言うだけ。「え? 病院に行くよ」と切り返したが、戻ってきたのは「いいのよ。お父さん、もう、うちに帰ってきているから…」という言葉だった。

◇ ◇

死期を察していたのか、父は自分が逝った後の身の回りのことを全て周到に準備していた。寺の手配、葬儀の執行、戒名、それらの事務手続きに至るまで。残した家族の手を煩わすようなことは何一つもなかった。その生真面目さに、昭和3年生まれ、戦後を生きた父の半生を感じた。

陸軍少年飛行兵だった父は厳格な祖母に育てられた。一方で電力会社職員という安定した身分を捨て、当時の南洋庁パラオ諸島に渡り事業を起こした祖父。「あのようになってはいけない」。そんな言葉を祖母から繰り返し何度も聞かされた。高校卒業と同時に選んだ就職先は、官庁に次いで安定した都市銀行。ここで定年まで40年以上に渡り堅実なサラリーマン生活を送った。

そんな父には、祖父のように奔放に生きる息子が心配の種だったに違いない。折に触れ、「本を読まない」とダメだぞ」などと小言を聞



タイ王国和僑会主催の異業種交流会。前列左から5人目が谷田貝さん

かされた。就職を控えた大学4年の夏には「明日(銀行本店のある)大手町へ行って人事部長に会って来い。全部話してあげよう」と言われたことがあったが、ハナから行く気などなく見事にすっぱかした。

ただ驚いた。2月下旬から介護関連の視察のため訪れていたミャンマーのホテル。「話が違っじゃないか!?」。慌てて飛行機を取り直しタイへ。その日の全日空の夜便で日本を目指すことにした。日付は3月2日に変わろうとしていた。

◇ ◇

海外で生活し、あるいは起業して、最も辛いことは肉親や大事な人の最後を看取ることができないことだと聞いたことがある。漠然とし抽象的ながらも、どこか頭の中に残っていた宿命。すっぱかした銀行の面接のことも次回、父と会った時に精算しようと思っていた。だから、起こってしまった現実には心残りしかない。

でも、それは後悔では決していない。「見返したい」と思った事業の成功が早いかわいさも、本質的なことではない。いつかは亡くなる。大切なことは、どう生き方をしたか、これに尽きるのではないか。そして今、改めて思うことは「辛いことがあっても諦めずに続けること」の尊さ。そういう謙(しつけ)をしてくれた亡き父に饒(はなむけ)の言葉として贈りたいと思っている。

(取材/小堀晋二)

2月中旬に不調を訴え、病院の集中治療室に運ばれた。呼吸が浅く酸素吸入器が必要と診断された。胃の中に真菌が入り込み悪さしているというのが説明だった。ただ幸いに抗生物質が効き一般病棟に移ることができたこともあって、ひとまず安心をしていた。「タイからの一時帰国は(当初予定の)3月6日で問題はなしでしょう」という医師の言葉もあった。

だから、母からの急変の知らせには、ただ

◎タイ王国和僑会  
「和僑会」とはアジア各地で起業する日本人らの親睦団体。2004年に香港で発足。以後、アジア各地で結成の輪が広がり、「タイ王国和僑会」は2010年4月に誕生した。毎月定例会や勉強会、半年に一度の異業種交流会などを開催して会員同士の親睦強化を図っている。2013年には、和僑の国際大会「第5回和僑世界大会」をバンコクで開催。2日間で2000人を超える和僑を募集させ、関係者を驚かせた。和僑会が掲げる共通の基本理念は①和をもつて貴しとなす。思いやりを持つて人に接する。②共存共栄、相互扶助。③地域社会への貢献。の3カ条から成る。